



シニアライフの過ごし方

インタビュー

第3回

根口 花子さん (マンション管理人・
和光ゆめあいサービスボランティアスタッフ)

シニアライフの過ごし方、第3回は和光市にお住まいの根口 花子さん。

65歳まで化粧品会社の営業職としてお勤めになった後、マンション管理人の仕事と福祉系のボランティア活動をされています。今回はアクティブに活動する根口さんにお話を伺いました。



—以前に勤めていた化粧品会社の営業とはどのようなお仕事だったのでしょうか？

化粧品会社って、契約しているお店を訪問して商品を売場展開させていただくんです。私はずっとドラッグストア担当だったので、各店舗の化粧品担当の方とか店長さんとかに、例えば「今シーズンはこういう商品が発売されますので売場展開させてください」とお願いする訳です。

—なるほど、店舗に卸すための営業、ということですね。

基本年2回新商品が出るのですが、商品の入替えも我々営業がやります。だからその時期は忙

しくて、アルバイトを雇ったりします。私の入社きっかけは友達にそのアルバイトを頼まれたことでした。

—そうだったんですね！おいくつの時のことだったのですか？

43歳くらいの時にアルバイトを頼まれて2年くらいやって、その後社員になりました。それからずっと続けて、定年は60歳ですけど、雇用延長で65歳まで勤めました。延長後も仕事内容は同じでしたね。

—長年勤め上げた時はやはり感慨深かったですか？

正直そんなでもなくて(笑)。仕事中は支社にいることはほとんどなく、毎日直行直帰だったので…。目標達成のためにずっと頑張っていたので、ホッとしましたね。ドラッグストアの方に「辞めるならうちで美容部員やらないか」というお誘いもいただいたのですが、美容部員もやっぱり数字に追われますから、ここらでもういいかな、と。

—定年が自分の気持ちを確認する良い機会だったのですね。それからすぐ今の管理人のお仕事を始めたのですか？

旅行などをした後、都庁にアルバイトに行っていました。でも東日本大震災の影響で交通機関が混乱して、電車通勤は難しいと思うようになって。それでしばらく家でジッとしていたんですけど、血圧が上がってきたので、「私は動かなきゃいけない人間なんだ」と思って、今度は近くで歩いて通える仕事を探したところ、今の仕事が見つかりました。もう7年、6月で8年目になります。

—マンションの管理人とはどのようなお仕事なのでしょうか？廊下とか階段のお掃除でしょうか？

そういったいわゆる共有部分のお掃除ですが、管理人の一番の仕事はごみを出すことだと思っています。毎日のように何かのごみの日でしょ？午前中だけのお仕事なので、自分の時間はちゃんとあります。

—マンションの管理人に加えてボランティア活動もされていると聞きました。



できる範囲でしています。和光市の社会福祉協議会に登録していて、お手伝いを必要としている方のお宅に伺って、介護保険のヘルパーさんのやる範囲以外をやっています。病院同行とか買い物同行とか色々ありますが、私はお掃除を。私の叔母が旅館をやっていたので、よくお手伝いに行ってお掃除の仕方をキッチリ教えてもらっていました。お掃除は好きだし、我ながら特技かなと思っています(笑)。

—特技を活かせることを探してボランティア活動を始められたのですか？

私の姪っ子が読み聞かせのボランティアをしていると聞いて「それいいね、じゃあ私も」となったのがきっかけでした。それで社会福祉協議会に自分で

申し込みました。

—すごい行動力ですね！

家にい過ぎるとダメなんだと思います。血圧も上がるし、掃除し過ぎて断捨離まで始めちゃって、今天袋には何も入ってない状態ですよ。もう終活やっているような感覚(笑)。

ボランティアはとにかく喜んでもらえるので、とっても嬉しいですね。あとね、自分の将来を色々考えます。もし身体のここが悪くなったらこれがやりづらくなるんだな、とか。人間鍛えておかないと足とか腰が悪くなって、家のことができなくなっていくというのがすごくわかりました。だから身体を動かし続けようと思うし、これもやりがいのひとつかな。



—会社員時代の経験は今に生きていますか？

やっぱり接客の仕方は生きているなあと思いますね。あまりお客さんに深入りしないように、距離感を持って接するという。管理人でも住民の方のプライベートにまで立ち入らないように気をつけています。

—そうなのですか？親しくなった方が楽しそうだと思いますが。

もちろんにこやかに挨拶とかはしていますけど、親しくし過ぎるとお互い余計なことまでしゃべっちゃったりするので、そこは気をつけています。そのおかげで長く続いているのかも。

—最後に、今40代・50代の会社員の方で、「定年後何をしようかな？」と迷っている方にアドバイスをするとしたら何と言いますか？

私はやっぱり、何でもいいから仕事を持った方がいいと思います。

仕事となると「やらなくちゃ」って責任が生じるから、ハリが生まれるんですよ。視野が広がるし、健康にいいことだと私は思っています。あと、働くこと自体が健康のバロメーターにもなるんですよ。「昨日までこの作業は楽勝だったのに今日もうまくできないなあ」とか。働く時間は決まっているから、他の作業と調整するのに頭を使ったりして、だらだらしないで済むのもいいですよ。生活にもリズムができます。だから働いていてすごくよくなったなって思っています。働けるところがあることに感謝でいっぱい。うちの主人もね、今第二の人生として病院で働いています。元々電気関係の仕事だったので、そういった設備方面で頑張ってもらっています。

—お聞きしていると「働く」って何ていいことだろうと思えてきます。

若い時は気がつかないことですよね。私も若い時は「休みたいなあ」って心から思っていましたよ！
あとはね、待っていないで、何でも自分からいかないとダメかなあって思います。

—待っていないでこれからやってみようと思っていることもありますか？

定年してから習字を習い始めました。昇段試験とかは受けていませんが、年賀状は全部自筆で書けるようになりました。あとは、料理教室に行ってみたいですね。ずっと料理はしてきているのですが、あくまで自己流なので。外食でおいしいものが出てきたら「家でも作ってみたい！」って思うタイプなので、そのためにももっと色んなことを知りたいです。



聞き手 (株) 星和ビジネスリンク 関

番外編：和光ゆめあいサービス

根口さんは和光市社会福祉協議会が運営する「和光ゆめあいサービス」に登録してボランティア活動をされています。今回、新倉支所もご案内いただきました。



新倉の住宅街の一角にある建物を社会福祉協議会が借り上げて「たまりば」として運営している。中では就労継続支援の一環で製造されているパンや小物を販売している。



平成21年12月に開設された「たまりば」で当初よりちょっと一息つきたい方や、お話をしたい方への対応などに、今はボランティアとして関わっている大谷さん（左、当初はパート）。和光ゆめあいサービスからの単発の依頼で「待たなし」の活動をする方も。「70代・80代でボランティアに行っている方もいる。皆さんがそれぞれやりがいを持ってやっていたので、励みになるしお互い切磋琢磨ですね」と言う。



ボランティアサービスを受ける方は1時間800円のチケット（上）で支払う。サービスを提供する方はいただいたチケットを500円相当の「緑むすび（地域通貨券、加盟店で使用可）」（下）と交換できる。